

水稻の生育状況と今後の管理対策（第5号）

令和7年7月11日
新潟県農林水産部

〔7月10日現在の県内全域の生育概況〕

- コシヒカリでは指標値（生育のめやす）に比べ、草丈は「やや長い」、茎数は「並」、葉数の進みは「やや早い」、葉色は「淡い」ですが、ほ場間差が大きい状況です。
- 新之助では指標値に比べ、草丈は「やや長い」、茎数は「並」、葉数の進みは「並」、葉色は「やや淡い」状況です。

〔気象予報と今後の生育見込み〕

- 7月10日発表の北陸地方1か月予報（7月12日から8月11日）では、平均気温は高く、降水量はほぼ平年並、日照時間は平年並か多いとなっています。
- 高温気象により、幼穂形成期および出穂期は平年より早まる見込みです。
- 葉色の褪色が始まっており、栄養凋落が懸念されます。

〔今後の管理対策のポイント〕

- 気温は高く推移しており、葉色の褪色がみられるので、穂肥を適切に施用し、栄養不足を防ぎましょう。
- 中干し^{*1}後の水管理は飽水管理^{*2}を行いましょ。また、こまめな水回りを行うとともに、ほ場全体に水が行き渡ったら速やかに水口を止めるなど、用水が地域全体に行き渡るよう大切に利用しましょ。
- 7月10日に「病虫害発生予察情報・注意報第2号（斑点米カメムシ類の多発生に注意）」が発表されましたので、適切な対策を実施しましょ。
- 葉いもちの発生が確認されています。特に新之助やわたぼうしなど、いもち病に弱い品種では、ほ場内で葉いもちが発生していないかよく観察し、病斑を確認した場合は速やかに薬剤防除を行ってください。

コシヒカリ

- 出穂期が平年より早まると予想されていることや、生育のほ場間差が大きいことから、早めに幼穂の状態を確認しましょ。
- 幼穂形成期以降に葉色が大きく低下すると品質が低下するおそれがあるため、穂肥^{*3}診断を行い、葉色を維持しましょ。
- 全量基肥肥料を施用している場合は、出穂期10日前頃に葉色を確認し、葉色が淡い場合は追加の穂肥を施用しましょ。

新之助

- 葉色の褪色が大きく、栄養凋落が懸念される場合は、穂肥前につなぎの施肥を検討してください。

早生品種

- 収量確保のため、2回目（出穂14日前頃）の穂肥を確実に施用するとともに、飽水管理を出穂期25日後まで継続してください。

*1 中干し（なかぼし）：田の水を落として、一時的に田を乾かし、稲の生育量を適正に保つ作業のこと

*2 飽水管理（ほうすいかんり）：土壌を湿潤状態に保つこと

*3 穂肥（ほごえ）：穂が出る前に行う追肥のこと

熱中症予防

- 気温が高く、特に湿度が高い場合は熱中症発生のリスクが高まります。
- 農作業中は、定期的に水分・塩分を補給し、帽子等で直射日光をさえぎるほか、暑さ対策用品を活用して身体を冷やすなどの熱中症予防対策を必ず行い、健康管理に十分注意しましょう。
- 気温の高い時間帯に作業しない、単独で作業しない、休憩はこまめに取るなど、十分配慮してください。
- 寝不足や疲労がたまると熱中症になりやすくなります。日頃より、体調管理に十分注意しましょう。

コシヒカリの生育診断と穂肥施用のタイミング

基肥一発肥料+追加穂肥

2回目時期

出穂予測の10日前頃
葉色を測定して**診断**する

葉色が淡ければ
すぐに追加



分施肥系の穂肥

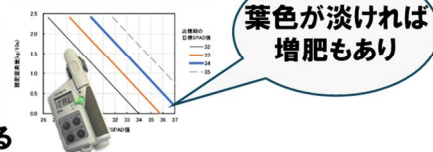
1回目時期

出穂18～15日前
幼穂形成期に生育調査を
して**診断**する



2回目時期

出穂10日前頃
出穂予測の10日前頃
葉色を測定して**診断**する



3回目時期

出穂3～6日前
葉色を測定して**診断**する

葉色が淡ければ
すぐに追加

測定時期	測定時期と条件	測定値
1回目時期	幼穂形成期	26.0～27.0
2回目時期	出穂予測10日前頃	26.0～27.0
3回目時期	出穂3～6日前頃	26.0～27.0

- 今後の管理対策発信予定日 7月18日・25日・31日、8月21日

〔補足資料〕

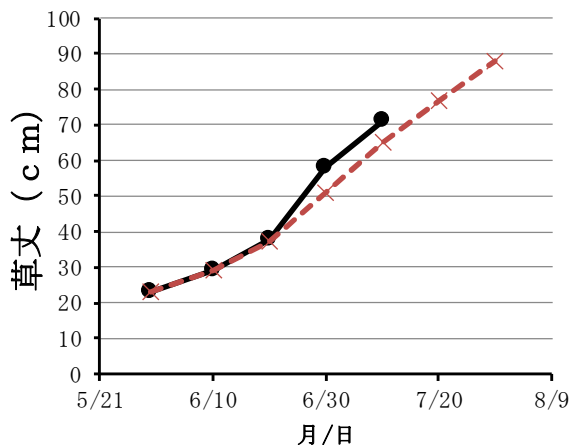
1 農業普及指導センター及び作物研究センターの生育状況（7月10日現在）

コシヒカリ

○ 指標値（生育のめやす）に比べ、草丈は「やや長い」、茎数は「並」、葉数の進みは「やや早い」、葉色は「淡い」です。

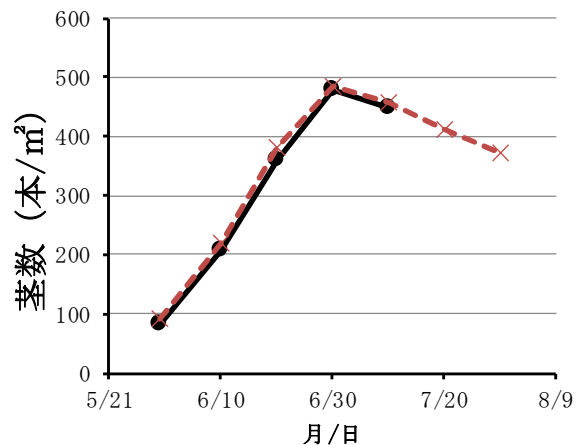
項目	本年値	指標値 (県平均)	指標値 との比較	指標値比・差
草丈	71 cm	65 cm	やや長い	109%
茎数	447 本/m ²	458 本/m ²	並	98%
葉数	11.5 葉	11.0 葉	やや早い	+0.5 葉
葉色 (SPAD 値)	33.6	35.6	淡い	-2.0

注) 県内全域の14生育調査ほデータの平均値（田植え5月12日、栽植密度17.2株/m²）



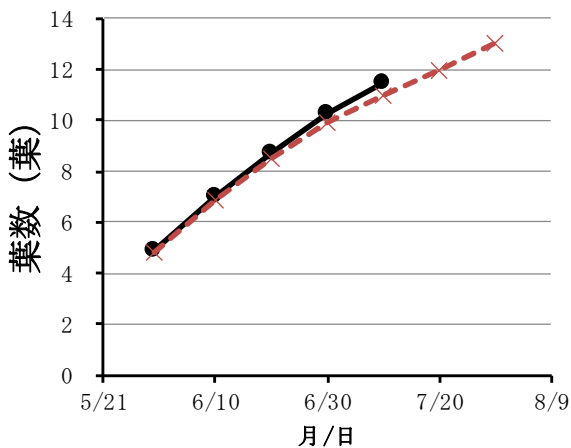
●— 本年値 -×- 指標値

草丈の推移
(県全体)



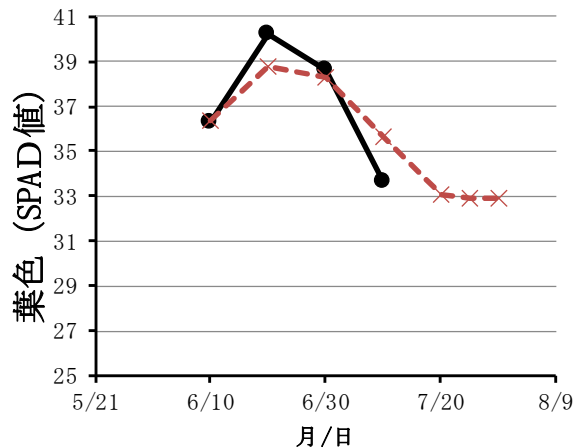
●— 本年値 -×- 指標値

茎数の推移
(県全体)



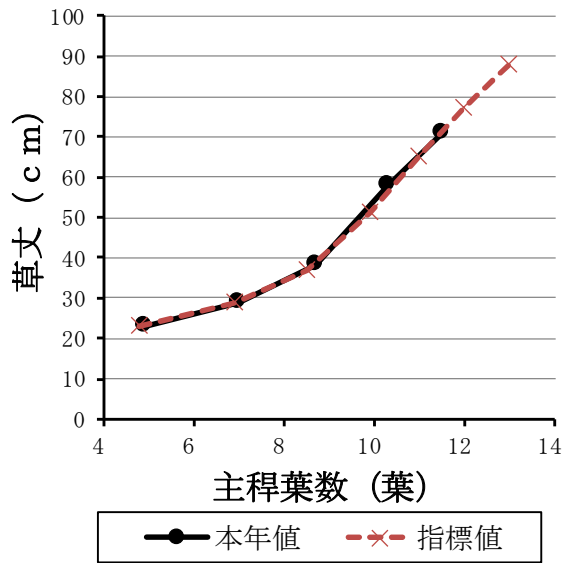
●— 本年値 -×- 指標値

葉数の推移
(県全体)

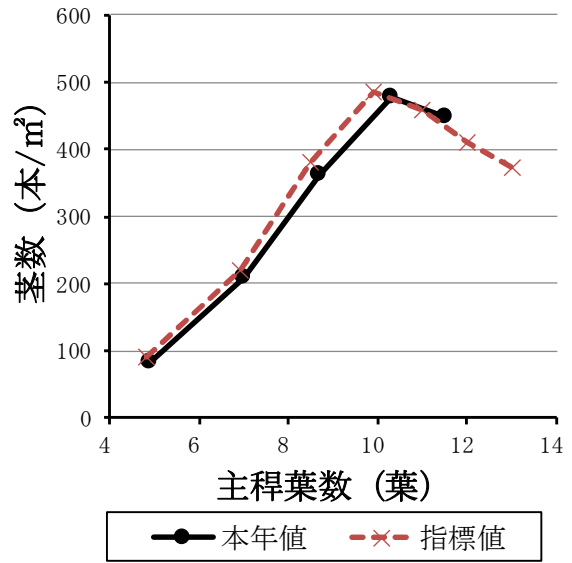


●— 本年値 -×- 指標値

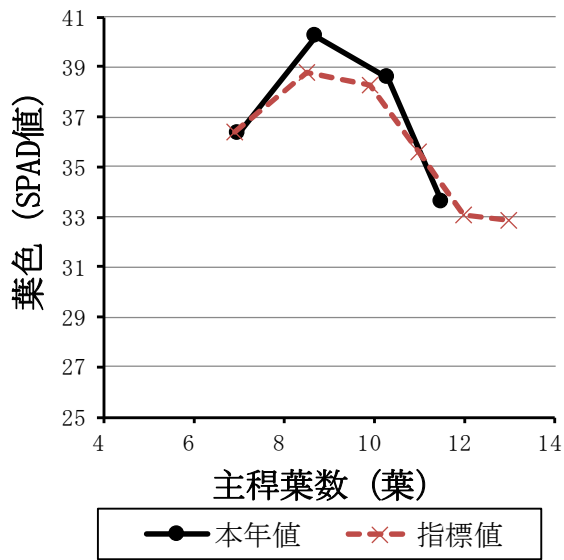
葉色の推移
(県全体)



葉数と草丈
(県全体)



葉数と茎数
(県全体)



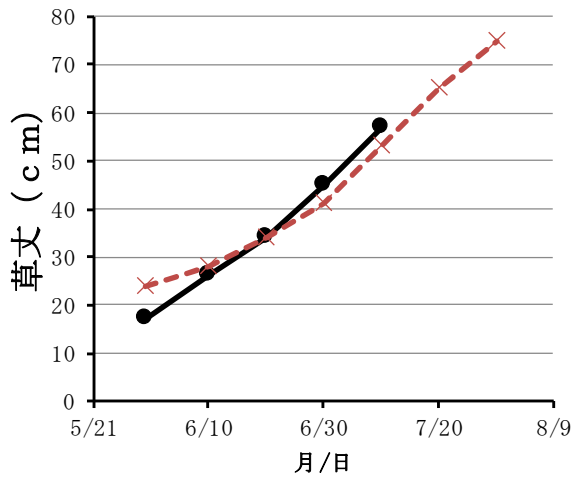
葉数と葉色
(県全体)

新 之 助

○ 指標値（生育のめやす）に比べ、草丈は「やや長い」、茎数は「並」、葉数の進みは「並」、葉色は「やや淡い」です。

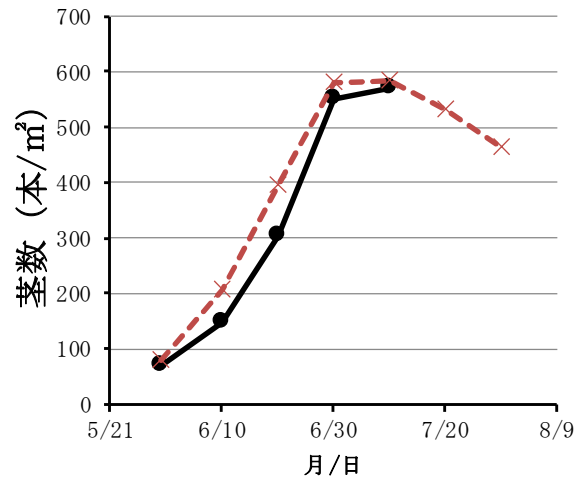
項目	本年値	指標値	指標値との比較	指標値比・差
草丈	57 cm	53 cm	やや長い	108%
茎数	571 本/m ²	584 本/m ²	並	98%
葉数	11.4 葉	11.3 葉	並	+0.1 葉
葉色 (SPAD 値)	34.8	35.9	やや淡い	-1.1

注) 県内全域の14生育調査ほデータの平均値 (田植え5月19日、栽植密度16.7株/m²)



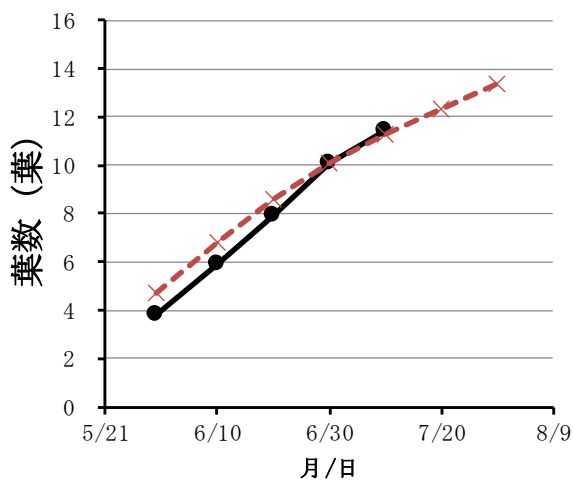
● 本年値 -x- 指標値

草丈の推移
(県全体)



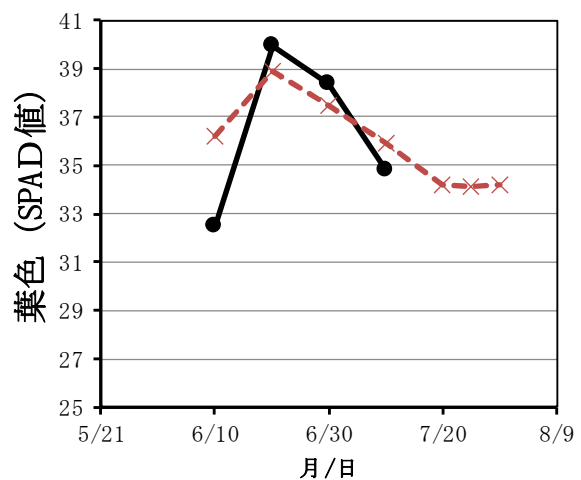
● 本年値 -x- 指標値

茎数の推移
(県全体)



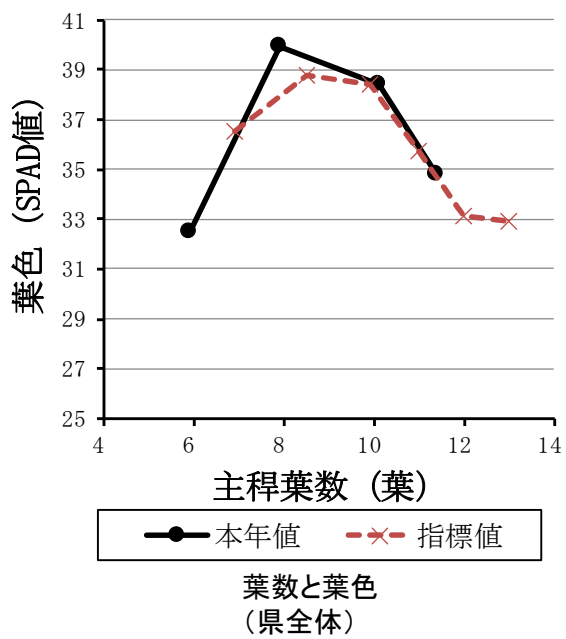
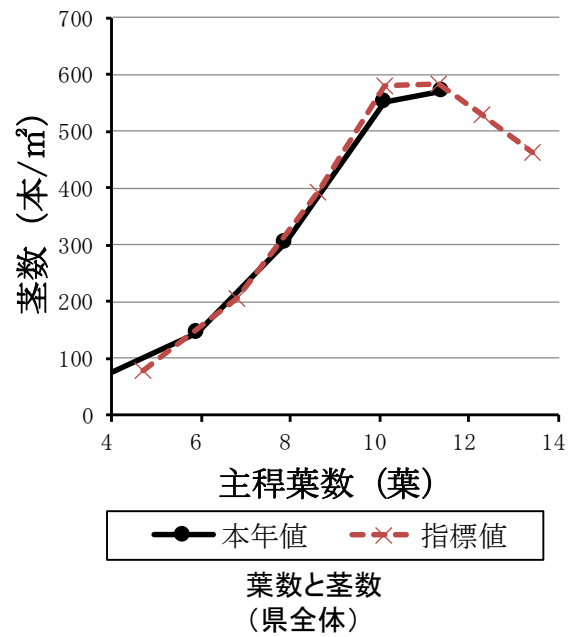
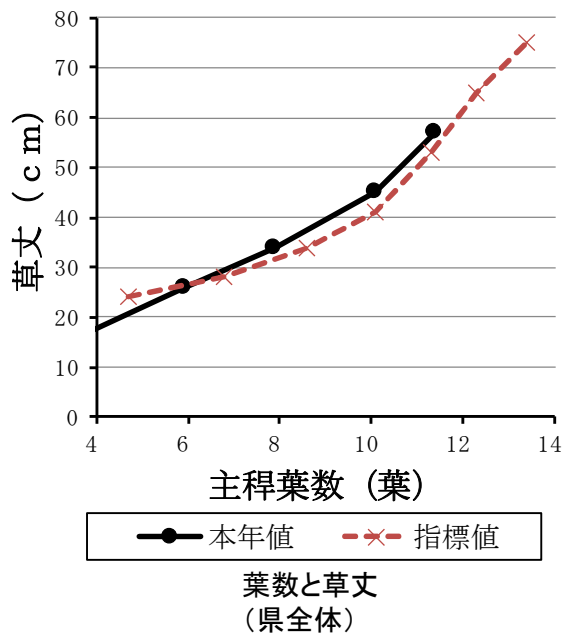
● 本年値 -x- 指標値

葉数の推移
(県全体)



● 本年値 -x- 指標値

葉色の推移
(県全体)



こしいぶき (参考)

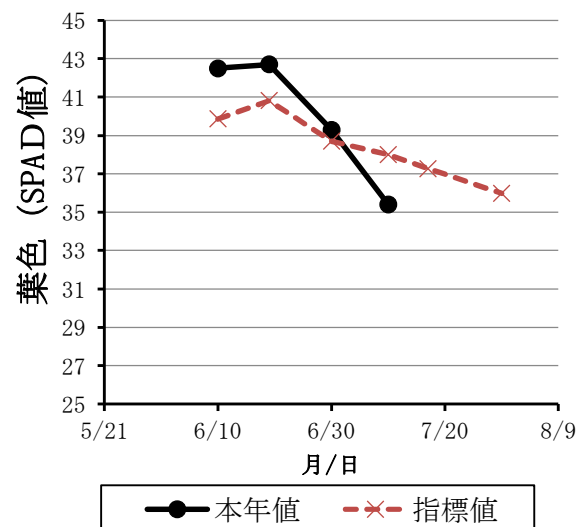
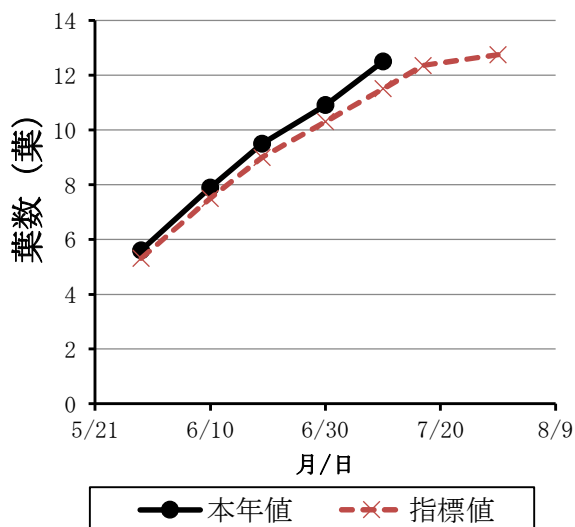
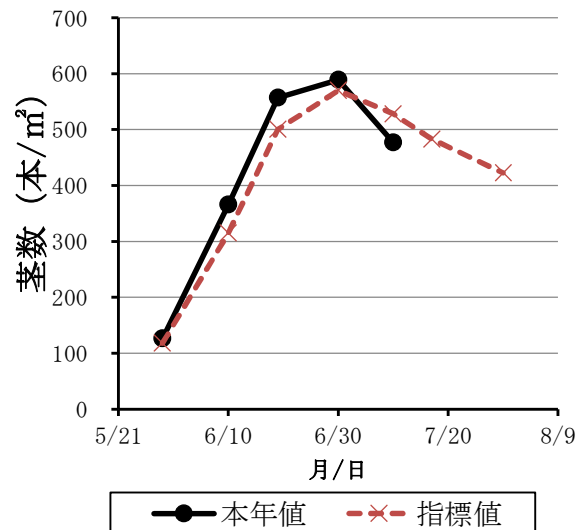
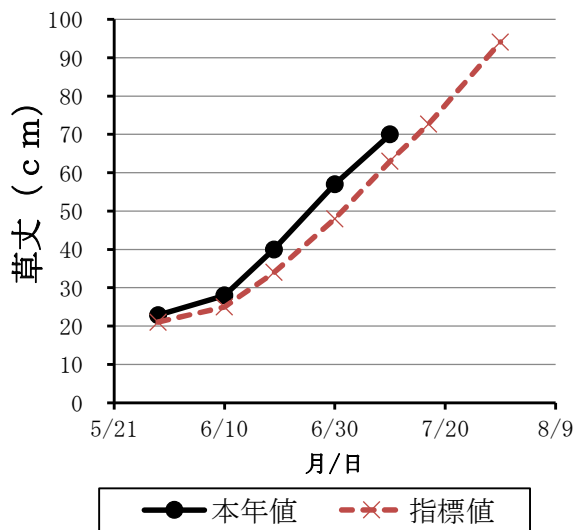
○ 指標値（生育のめやす）に比べ、草丈は「長い」、茎数は「やや少ない」、葉数の進みは「早い」、葉色は「薄い」です。

項目	本年値	指標値	指標値との比較	指標値比・差
草丈	70 cm	63 cm	長い	111%
茎数	477 本/m ²	528 本/m ²	やや少ない	90%
葉数	12.5 葉	11.5 葉	早い	+1.0 葉
葉色 (SPAD 値)	35.4	38.0	薄い	-2.6

注1) 化学肥料栽培。田植え5月9日、栽植密度18.7株/m²

注2) 基肥窒素成分量3.0kg/10a、穂肥窒素成分量3.0kg/10a (1.5kg×2回分施：1回目7月4日)

注3) 長岡市長倉町(作物研究センター)の生育調査ほデータ



2 出穂期の目標 SPAD 値に誘導するためのコシヒカリの 2 回目穂肥診断

登熟期間が高温になっても後期栄養を維持するため、分施体系 2 回目穂肥も穂肥診断を行います。穂肥診断により診断量が計画量よりも多く必要となったら、増肥しましょう。診断量が計画量よりも少ない場合は、計画量を施用しましょう。

2 回目穂肥診断方法

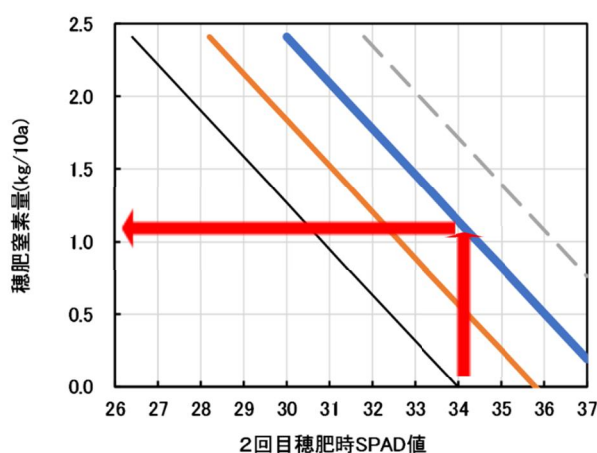
- 1 2 回目穂肥時期（予想出穂期 10 日前）に葉色（SPAD）を測定する。



- 2 下記図 1 より、出穂期の SPAD 値が 32～34 となるように、2 回目穂肥時期 SPAD 値から穂肥窒素量を読み取る。



- 3 診断結果 > 計画量 → 診断結果量を施用
診断結果 < 計画量 → 計画量を施用



出穂期の
目標SPAD値

- 32
- 33
- 34
- 35



高温予想だけど、肥料は何キロくれたらいい？

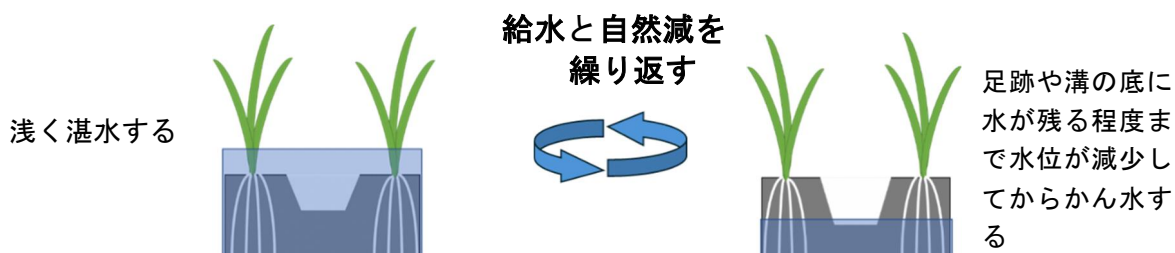
今年の夏は暑くなりそうだから目標SPAD値は34にしよう

- ・ 出穂期の目標 SPAD 値：34
- ・ 2 回目の穂肥時の SPAD 値：34
- ⇒ 穂肥窒素：約 1.2kg/10a

図 1 出穂期の目標 SPAD 値に対応した 2 回目穂肥における SPAD 値と穂肥窒素量の関係

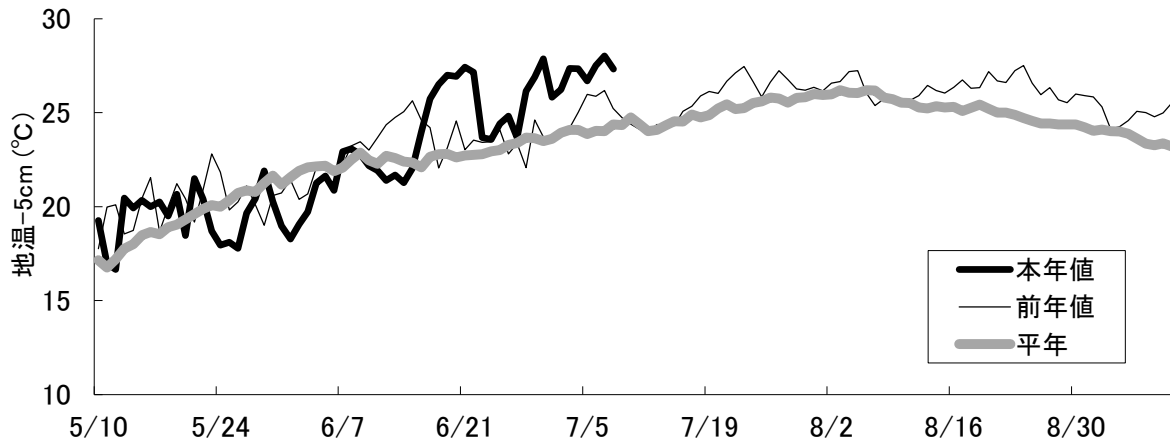
注 重回帰式 $Y=1.749 \cdot X1+0.555 \cdot X2+13.134$ ($R^2=0.669$)、Y: 出穂期葉色 (SPAD 値)、X1: 2 回目穂肥窒素量 (kg/10a)、X2: 2 回目穂肥施用時の葉色 (SPAD 値)。

飽水管理のイメージ

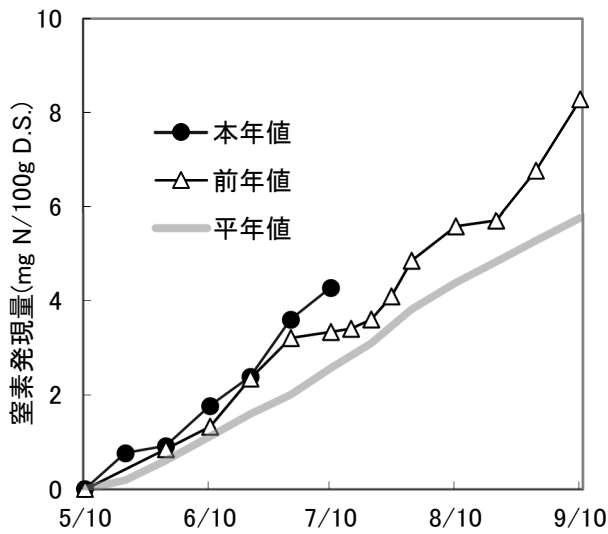


3 ちりよく 地力窒素の発現状況

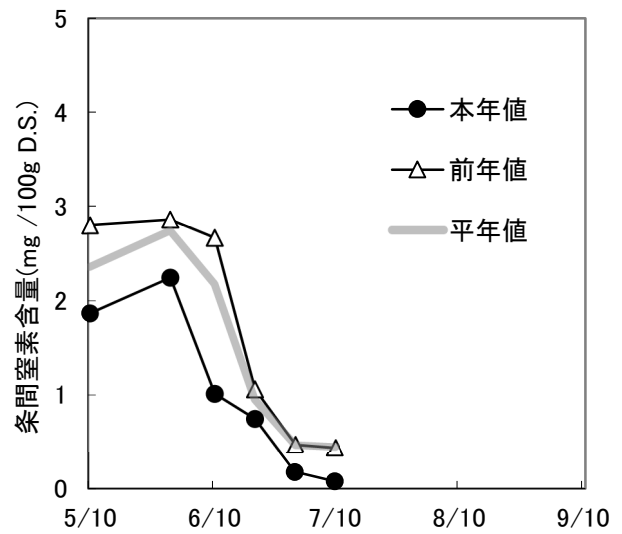
- 6/29～7/8 の期間の日平均地温は平年差+3.3℃で平年より高く推移しました。この期間の地力窒素発現量は平年よりやや多く、条間窒素含量は平年より少なく推移しています。



水田地温（5 cm 深）の推移
 (農業総合研究所内ほ場、基盤研究部調査)



地力窒素発現量の推移(7月9日)
 (農業総合研究所内ほ場、基盤研究部調査)
 初期値=0、田植日：5月9日、化学肥料栽培
 基肥窒素成分量：3.5 kg/10a



条間窒素含量の推移(7月9日)
 (農業総合研究所内ほ場、基盤研究部調査)
 田植日：5月9日、化学肥料栽培
 基肥窒素成分量：3.5 kg/10a